



平成 20 年 12 月 10 日

各 位

会 社 名 フ タ バ 産 業 株 式 会 社
代 表 者 名 取 締 役 社 長 小 塚 逸 夫
コ ー ド 番 号 7 2 4 1 東 証 ・ 名 証 第 1 部
お 問 合 せ 先 常 務 取 締 役 石 川 眞 澄
(TEL 0564-31-2211)

過年度決算訂正概要、第 2 四半期累計期間業績予想の修正
ならびに第 2 四半期決算発表延期に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 10 月 15 日付け「過年度決算訂正の可能性に関するお知らせ」において、当社の金型・設備に関連する仕掛品及び建設仮勘定の会計処理に関連して過年度決算訂正の必要が生じたことをご知らせしておりますが、その後の社内調査委員会による徹底した調査、会計監査人との協議などにより、新たに訂正を必要とする過年度の会計処理が確認されました。また、前回公表しました事項による過年度決算への影響額も若干修正すべきことが確認されております。

前回の公表値と相違が生じることが事実となりましたので、新たに判明した訂正事項及び現時点で確認されている影響額について、あわせて第 2 四半期累計期間の業績予想の修正について、下記の通りお知らせいたします。

なお、決算訂正の対象範囲が拡大したことから、平成 20 年 11 月 27 日付「社内調査の進捗及び平成 21 年 3 月期第 2 四半期決算発表日程ならびに当社株式の監理銘柄(確認中)指定に関するお知らせ」にてお知らせした第 2 四半期決算発表日程(平成 20 年 12 月 12 日)及び四半期報告書の提出日程を順延せざるを得ない状況となりました。発表日及び提出日は追って確定次第お知らせいたします。

また、過年度決算訂正及び平成 21 年 3 月期通期業績予想につきましては、精査完了次第速やかにご報告申し上げます。

今少し、関係各位にご迷惑、ご心配をおかけすることとなり、こころよりお詫び申し上げます。

記

1. 新たに判明した訂正事項

金型・設備に関連する仕掛品及び建設仮勘定の会計処理に関連して過年度決算訂正の必要が生じたことは既にお知らせしておりますが、当該会計処理だけを精査するのではなく、建設仮勘定全般についても見直しを実施いたしました。

その見直しのなかで、従来は資産性あるものとして固定資産に含めて会計処理していた据付調整費について、より厳格な会計処理ではありますが、保守的で透明性のある決算処理である期間費用処理とすべきと判断いたしました。当社は、品質レベルに対するお客様のご要求にお応えすべく、設備設置の際にその精度確保のための生産準備の取組みや革新的な工場づくり活動にかなりの費用を投じてきて

おりましたので、この期間費用処理は多額となり、直近過去 2 期の個別決算は経常赤字となってしまいました。

2 期連続赤字の状況となりますと、固定資産に減損の兆候があるとされ、採算が良くない工場の固定資産について減損処理が求められることとなりました。あわせて、将来税金の取戻しが可能として資産計上してきた繰延税金資産の取崩しを行うこととなり、純利益への影響額はさらに多額となりました。

新たに判明した訂正事項の概要は次のとおりです。

(1) 据付調整費に関する費用計上

当社の主たる事業は、自動車部品を製造しカーメーカー各社に納入することですが、その自動車部品を製造するための設備や金型も自社で製造しております。これらの設備や金型は、各工場に設置される際に、設備の精度確認などのために実際に使用する部材を投入し、試し運転を行います。その費用は、個別の設備ごとにその費用を把握して設備原価に組み込み、設備本体とともに 10 年償却により費用化してまいりました。

しかし、今回の見直しにより、会計監査人からは、当社の従来の設備原価への組み込み方法では、費用の把握が総体的で、個別の設備ごとの費用実績の把握が不十分であるとして、固定資産として 10 年償却するのではなく期間費用として会計処理すべきとの指導を受けました。個別の設備ごとの過去の費用実績を算定することが困難なため、検討の結果、期間費用として処理することにしました。

また、当社では、生産効率の向上を目指して革新的な工場づくりの活動を進めてまいりましたが、この活動は平成 20 年 7 月に完結させる計画でおりましたので、活動にともなって発生した据付調整などの費用は一旦建設仮勘定に計上し、平成 20 年 7 月に一括振替して 10 年償却を開始する予定としておりました。しかし、活動の効果が一部出てきていることから、前期より設備本勘定への振替を実施し、減価償却を開始しておりました。

今回、会計監査人からは、費用の把握が総体的であり、通常のカイゼン活動と同様に期間費用として会計処理すべきであるとの指導を受けました。過去の設備移動の据付費の算定や個別の設備ごとの費用実績を算定することが困難なため、検討の結果、期間費用として処理することにしました。

(2) 溶接機仕掛品在庫の原価処理

当社は、カーメーカーや子会社に設備を納入しておりますが、外販溶接機仕掛品在庫について、実地たな卸しを行った結果、過年度にて売上原価として処理すべきものが新たに見つかりました。

(3) 試験研究費への振替

建設仮勘定の精査を行なったところ、試験研究費に振替を予定していた事案が建設仮勘定に残っており、これを支払日に遡り振替えることといたしました。

(4) 有形固定資産の減損処理

固定資産の投下資金を将来の事業活動で回収ができないと判断された場合には、その回収が出来ないとされる額を減損する必要がありますが、今回、過年度決算において大幅な訂正が生じたことから、工場の採算性などを精査し、必要な固定資産の減損処理が求められました。当社は、できる限り保守的で透明性のある決算処理によって会計の信頼性を高めることが重要と考え、固定資産の減損処理を行うことといたしました。その確定作業は最終段階にあり、早急に減損額を確定させるべく詰めに急いでおります。

(5) 税効果会計の見直し

過年度決算における大幅な訂正が生じたことから、税効果会計の見直しが必要となりました。将来税金の取戻しが可能として資産計上してきた繰延税金資産の計上を取消しすることとなりました。

以上、当初公表いたしました事項に、上記の新たに判明した事項を加えた訂正事項別の訂正金額の概要は下表のとおりです。なお、訂正金額小計 801 億円は、営業利益、経常利益への影響額であり、訂正金額合計 1,148 億円は純利益への影響額となります。

	平成20年10月15日時点	平成20年12月10日時点
当初公表した「事項」によるもの	△245	△310
据付調整費に起因するもの : (1)	—	△451
溶接機仕掛品在庫の原価処理に起因するもの : (2)	—	△26
試験研究費に振替えたもの : (3)	—	△14
訂正金額 小計	△245	△801(△556)
有形固定資産の減損処理 : (4)	—	△270(見込み)
税効果会計の見直し : (5)	—	△76
訂正金額 合計	△245	△1,148(△903)

過年度決算の訂正額が増える理由

1. 10月15日発表時点で判明していた事項の精査により訂正額が増加しました。

2. その後調査範囲を拡大する必要が生じ、精査したところ新たに訂正が必要となりました。<(1)~(5)>

※「平成20年12月10日時点」の括弧内数字は10月15日時点の金額からの増加額です。

※上記訂正金額の対象期間は平成17年3月期~平成20年3月期、平成21年3月期第1四半期です。

※このほか、過年度決算において金額に重要性がないことから未修正となっていた事項について、その全てを会計処理することとしておりますが、当該事項は上表には含まれておりません。

2. 過年度決算への影響額

新たに判明した事項による影響額は、平成21年3月第1四半期までを含めて、据付調整費用で451億円(償却戻り分86億円を差し引いております。)、溶接機仕掛品在庫の原価処理が26億円ならびに試験研究費への振替が14億円となっております。

また、平成20年10月15日に公表いたしました予想値(245億円)につきましても、その後の調査・検証で66億円増加すると見込まれております。

以上の合計801億円が連結経常利益に係る最終的な訂正額となる見込みであり、各年度連結経常利益への影響額(概算)は下表のとおりとなっております。

	訂正前 経常利益	平成20年10月15日時点		平成20年12月10日時点	
		訂正後経常利益	訂正額	訂正後経常利益	現時点の訂正額
平成17年3月期	163	163	—	72	△91(△91)
平成18年3月期	194	144	△50	36	△157(△107)
平成19年3月期	234	164	△70	△14	△249(△179)
平成20年3月期	248	123	△125	△24	△272(△147)
平成21年3月期第1四半期	34	34	—	3	△31(△31)
訂正金額 合計			△245		△801(△556)

※「現時点の訂正額」の括弧内は10月15日時点の金額から追加となった金額です。

※このほか、過年度決算において金額に重要性がないことから未修正となっていた事項について、その全てを会計処理することとしておりますが、当該事項は上表には含まれておりません。

また、上記以外に、工場設備の減損処理及び税効果会計の見直しが各期の当期純利益へ影響を及ぼす見込みですが、確定作業中の工場設備の減損処理につきましては見込み額で算出した各年度連結当期純利益への影響額(概算)は下表のとおりです。

[連結純利益への影響] (億円未満は切捨て表示しております 単位:億円)

	訂正前 当期純利益	平成 20 年 12 月 10 日時点	
		訂正後当期純利益	現時点の訂正額
平成 17 年 3 月期	97	6	△91
平成 18 年 3 月期	114	△116	△230
平成 19 年 3 月期	127	△390	△518
平成 20 年 3 月期	110	△162	△273
平成 21 年 3 月期第 1 四半期	14	△20	△34
訂正金額 合計			△1,148

※このほか、過年度決算において金額に重要性がないことから未修正となっていた事項について、その全てを会計処理することとしておりますが、当該事項は上表には含まれておりません。

3. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間(平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)の業績予想の修正

平成 20 年 5 月 14 日の決算発表時に公表いたしました平成 21 年 3 月期(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)の第 2 四半期連結累計期間の業績予想を修正いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

なお、通期の業績予想につきましては、第 2 四半期決算発表時に公表する予定としております。

(1) 平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間(平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)の業績予想の修正

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想(A)	210,000	12,300	11,500	5,500
今回修正予想(B)	221,900	△3,300	△4,500	△9,400
増減額(B-A)	11,900	△15,600	△16,000	△14,900
増減率(%)	5.7	△126.8	△139.1	△270.9
(参考)前中間期実績	218,155	12,706	12,014	5,322

上記の(参考)前中間期実績は平成 19 年 11 月 13 日に発表した実績であり、現在進めている過年度決算訂正作業により変更となる可能性があります。

(ご参考:平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間の個別業績予想の修正)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想(A)	155,000	8,500	9,000	5,400
今回修正予想(B)	157,500	△6,700	△6,400	△6,600
増減額(B-A)	2,500	△15,200	△15,400	△12,000
増減率(%)	1.6	△178.8	△171.1	△222.2
(参考)前中間期実績	153,199	9,834	10,652	5,935

上記の(参考)前中間期実績は平成 19 年 11 月 13 日に発表した実績であり、現在進めている過年度決算訂正作業により変更となる可能性があります。

(2)修正の理由

当第 2 四半期の業績は、過年度決算訂正による影響のほか、カーメーカーの生産台数の減少、車種構成の変化による利益の減少を主因に、利益面は期初に公表した予想数値を下回る見込みとなりました。売上高は鋼材価格の上昇を売価に転嫁したことにより、若干増となりました。

①過年度決算訂正による影響

第 1 四半期において、過年度決算訂正による影響が据付調整費を中心として、経常利益△31 億円、四半期純利益△34 億円影響しております。

②固定資産の減損

㈱フタバ伊万里の直方工場の事業採算の回復が見通し辛いいため、固定資産の減損を行いました。四半期純利益で△39 億円影響しております。

③その他

(生産車種の構成の変化)

燃料価格の高騰は、相対的に燃費の悪い中型車以上の売れ行きを悪化させており、車種ごとの生産台数に反映されてきております。生産が比較的堅調な小型車の部品価格は低く、その採算は比較的に厳しいことから、当社グループの業績を低下させる要因となっております。

(鋼材価格の上昇、スクラップ価格の低下)

鋼材価格は値上がっており、値上がり分のカーメーカーへの売価へも反映したことにより、当社グループの売上高を増加させておりますが、一部の製品においては売価への反映時期がずれ込んでおり、当社グループの利益を減少させる要因となっております。

また、中国の鉄鋼需要低下などから、スクラップ価格が低下しており、当社グループの売上高及び利益を減少させる要因となっております。

以上

(注)上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。